

1. 教育研究の目的・構成・取組み

1.1 学校法人金沢工業大学建学綱領

(1) 本学園の使命

日本の学校教育法は「大学は、学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と述べています。

また、アメリカの故ケネディ大統領は、1963 年 6 月 10 日、アメリカン大学の卒業式において『平和の戦略』と題する演説を行いました。この演説はあの有名なリンカーン大統領の『ゲチスバーク演説』に比すべき歴史的な演説といわれています。彼はその中で「この地上にあるもので大学ほど美しいものはないであろう。大学は無知を憎む人々が知ることに努め、真理を知っている人々が、他の人々の眼を開かせようと努める場であるからである。」と、彼らしい格調の高い言葉を引用して大学の使命を語っています。

これら二つの表現において、学校教育法は学理的に、ケネディ大統領は高踏的に、それぞれ大学の使命を定義づけています。たしかに、大学は学術の中心であって、常に高度の教育実践と斬新な研究活動を行い、日本及び世界学術の進歩と国際文化の向上に寄与することを使命とし、高等専門学校は、産業日本の発展を担う優秀な技術者を育成することを使命としているのであります。

(2) 教育原理の焦点

さらに、一般的教育とは、哲学者フィヒテの唱えるように、人間自身を形成することであり、人間を彼自身たらしめることであります。また、教育学者ナトルプのいうように人格を陶冶することでもあります。陶冶とは個人の完全なる形成を意味します。

それゆえ、学園の使命を具体的に挙げれば、人間形成、学術探究及び職業教育の三つの項目を数えることができます。この三つの項目は、いずれも重要な意義を持っていますが、窮極においては、人間形成に重点を置いているのであります。要するに、学術探究、職業教育によっても人間形成は可能ではありますが、人間形成を除外して、学術探究も職業教育もありえないのであります。したがって、使命の本質は、最高の知能と深奥な教養のある指導的人間の育成の場であると断言してよいと思うのであります。

このように、学園を人間形成の場として重視すれば、学生生活はただ単に教室、実験室及び図書館にのみあるのではなく、その文化活動、体育奨励、寮生活の指導、厚生施設、衛生管理、生活相談及び就職斡旋などあらゆる部門、すなわち常住坐臥そのものが重要な意義を持つことになります。

(3) 学園共同体の倫理

以上の観点に立てば、人間形成ということは、官学たると私学たるとを問わず、およそ共通の最大の使命であります。特に私学においては、教育の担当者は、ひとり教授のみならず、広く理事者及び職員をも含むべきことを理解せねばなりません。したがって、本学園においては理事、教職員及び学生の三位一体の学園共同体を築き上げることによって、真に人間形成の場となし、民主主義日本の期待する人間像の生まれ出る温床とすべきであります。

しかも、私学は官学に比較して、私立学校法によって一定の基準を守り、監督を受けねばならないとしても、複雑な法的規制や煩瑣な官僚統制を免れて、はるかに自由な立場にあります。戦前においては、私学に対する当局の監督統制は、今日よりは、はるかに厳格を極めていましたが、それにもかかわらず、私学は、それぞれ独自の伝統と堅実な学風を育て上げたのであります。

いずれの私学においても、その経営の企画と財政の確立のために多大の苦慮を払いながら、なおかつ香り高き矜持を失わないのは、実にこの自由の立場が存在するからであります。それゆえにこそ、本学園においては、技術時代に先駆する革新的な産学協同方策を高く旗標として掲げて、経営管理の最高責任者である理事会は、教育研究の直接担当者である教職員及び研学当事者である学生の全面的な協調を得て、その抱負経綸を実現するため、私学の特長を遺憾なく発揮して縦横自在な活動を行い、高邁な学風を築かんとするものであります。

見られよ。古き校史に彩られた私学の中には、その創設者の人格と識見によって建立され、長き歳月と烈しい風雪に耐えて鍛え上げられ、独自の伝統と質実な学風を誇っているものが数多く存在しているのであります。例えば早稲田大学における大隈精神、慶応義塾大学における福沢精神、また、同志社大学における新島精神のごときであります。本学園においても、ここに述べる建学綱領を基盤として日本の学界に垂範する崇敬に値する風格を樹立せねばなりません。

(4) われらの行く栄光の道

戦後におけるわが日本の経済的発展は、敗戦というおなじ運命を辿り、ともに復興の道を進んだ西ドイツの奇蹟的發展を、はるかに凌駕する神秘的發展を遂げたのであります。この偉大な成果は日本人の知能と技術と勤勉の総合的所産であります。

いまや、本学園はこの偉大な民族的栄光をバックボーンとして、郷土石川県、北陸三県、中部圏及び日本海沿岸地区の地域開発のための学術的母体と技術的基地の主役を演ずるとともに、さらに世界市場に挑戦する産業日本の要求する最優秀な技術者と最上級の経営者を養成すべき重責を双肩に担っているのであります。

進んで将来は、現代アメリカの科学技術の聖地ともいべきマサチューセッツ工科大学の運営方針に学んで、日本の宇宙開発より産業社会学に至るまで、最高水準を誇る第一流の学園たらしめんとする大志を実現して、民主主義日本の学界に偉大な栄光を捧げんとするものであります。われわれは、この国家的至上使命を遂行するために本学園のあらゆる機能を結集して、その共同的総力を挙げて精進する決意を持たなければなりません。

昭和 40 年 2 月

(5) 三大建学旗標

金沢工業大学及び国際高等専門学校は、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、学園創設理事である泉屋利吉翁が定めた三大建学旗標の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

高邁な人間形成	我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者・研究者を育成します。
深遠な技術革新	我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者・研究者を育成します。
雄大な産学協同	我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。

1.2 教育目的・教育目標

(1) 教育目的

本校および各学科における教育目的は次のとおりです。

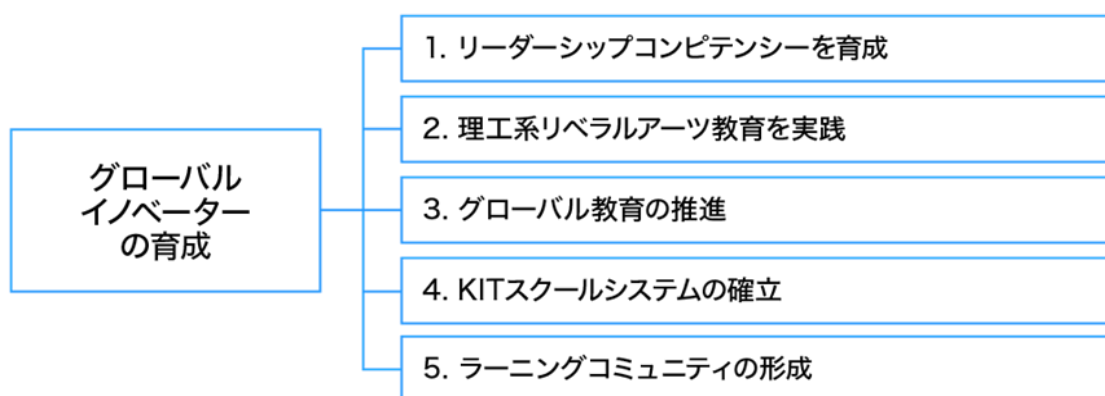
国際高等専門学校学則「第 3 章 組織及び定員 第 6 条、第 6 条の 2」より
 第 6 条 本校に国際理工学科を置く。
 第 6 条の 2 国際理工学科は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。

国際高専 2025 In Sight

国際高等専門学校（以下、本校）は、社会全体が大きく変化する中において、新たな価値を創出し活躍できるグローバルイノベーターの輩出を目的とした、全く新しい高等専門学校であります。

第1学年・第2学年は大自然に囲まれた白山麓キャンパスで、授業の多くを英語で学ぶ全寮制教育を行い、地域社会や産業界と協力し、国連が定めたSDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) を目指すプロジェクトに取り組みます。第3学年はニュージーランドの国立オタゴポリテクニクに全員が1年間留学し、第4学年・第5学年は金沢キャンパスで隣接する金沢工業大学生との共創教育を実施します。

本校は、我が国の先駆となる理工学教育を着実に成功へと導き、KIT スクールシステムを基盤とし更なる発展を遂げることを目的に「国際高専 2025 In Sight」を策定しました。



【教育目標】 「グローバルイノベーターの育成」

【ICT Educational Mission】 “Fostering Leaders of Global Innovation”

国際高専 2025 In Sight は、<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/ja/about/2025-in-sight/>で紹介しています。

1.3 学科

■ 国際理工学科

(1) 入学定員及び収容定員

入学定員は、国際理工学科 35 名で、令和 7 年度の収容定員は表 1 - 1 のとおりです。

表 1 - 1 令和 7 年度入学定員及び収容定員

学科名	入学定員	収容定員
国際理工学科（第1学年～第5学年）	35	195※

単位：人

※入学定員は令和 2 年度より 90 名から 45 名へ、令和 5 年度より 45 名から 35 名にそれぞれ変更

1.4 三つの方針について

(1) 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本校は、教育目標を「グローバルイノベーターの育成」とし、学生・理事・教職員に対しては学園共同体が共有する価値に基づく信条である図 1-1「KIT-IDEALS」を常に意識、尊重することを求め、自身及び学園共同体の向上発展を目指しています。また、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけるため、第 1 学年・第 2 学年は全寮制教育により人間力の陶冶を行い、第 3 学年には 1 年間の海外留学を義務づけています。

本校は、上記理念及び教育方法に共感し、次のような特徴を持つ人を求めています。

- ① しっかりとした基礎学力を持ち、科学技術やデザイン（課題の発見・解決）、イノベーション（新しい価値の創造）に興味を持つ人
- ② グローバル社会での活躍に強い関心と探究心を持ち、英語でのコミュニケーション能力を高めようとする人
- ③ 主体的に社会や地域に貢献する意欲を持ち、且つ行動する人

本校では、一般入試・自己推薦入試以外に、多様な学生を募集するためにグローバル入試を実施します。また、すべての入学試験において、主体性や協調性、高い向上心を持つ学生を選抜するために面接試験を行います。選考にあたっては、各入試区分で定められた試験および出願書類により多面的・総合的に評価します。

「学園共同体が共有する価値」に基づく信条（行動規範）

KIT-IDEALS

この学園に集う私たちは、学園共同体として共有すべき価値を
 “KIT-IDEALS”としてまとめ、これらに基づく信条を定めました。
 これを学生、理事、教職員が常に意識し、尊重することによって学園共同体の向上発展を目指します。

K	Kindness of Heart	思いやりの心 私たちは「素直、感謝、謙虚」の心を持つことに努め、明るく公正な学びの場を実現します。
I	Intellectual Curiosity	知的好奇心 私たちは「情熱、自信、信念」を持つことに努め、精気に満ちた学びの場を実現します。
T	Team Spirit	共同と共創の精神 私たちは「主体性、独創性、柔軟性」を持つことに努め、共同と共創による絶えざる改革を進め、前進します。
I	Integrity	誠 実 私たちは、誠実であることを大切にし、共に学ぶ喜びを実現します。
D	Diligence	勤 勉 私たちは、勤勉であることを大切にし、自らの向上に努力する人を応援します。
E	Energy	活 力 私たちは、活動的であることを大切にし、達成や発見の喜びを実現します。
A	Autonomy	自 律 私たちは、自分の行いを律し、1人ひとりを信頼し、尊敬します。
L	Leadership	リーダーシップ 私たちは、チームワークを大切にし、自分の役割を自覚しつつ、責任を果たします。
S	Self-Realization	自己実現 私たちは、自らが目標を持つことを大切にし、失敗に勝ることなくさらに高い目標に向かって挑戦することに努めます。

令和 3 年 4 月 1 日 学校法人 金沢工業大学



図 1-1 KIT-IDEALS

(2) 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本校は、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけさせるために、下記を特色とする C D I O イニシアチブ（Conceive、Design、Implement、Operate）の理念をカリキュラムに織り込み、学生の主体的な体験を重視するカリキュラムを編成します。また、学修成果の評価については、成果物や試験以外に、活動プロセスや協働状況を評価するために LMS（学習管理システム）を活用します。

1) 課題発見・解決力を高める

高専入学時から、Open-ended、即ち決まった答えのない問題について解決策を探るプロジェクトを早い段階でスタートさせる。継続的にデザインシンキングを実践する機会を設けて、課題を発見・定義する経験を繰り返し、幅広い研究成果や調査技術を駆使し、課題の解決へと結びつける力を養っていく。

2) 科学的思考力、コミュニケーション能力を鍛える

他者と協働しながらアカデミックな探究の精神を養うこと、批判的・分析的思考の技術を磨くこと、ディスカッションやディベートを含む効果的なコミュニケーション能力を育成することに努める。

3) よりよい社会づくりに積極的に参画する態度を養う

地域とのふれあいを意識し、地域社会や自然・環境を調査・研究対象としたプロジェクトを行い、地域貢献を通じて社会の一員としての自覚を醸成する。

4) グローバルに活躍できる英語力を培う

特に数学、科学、工学における教育伝達的手段として 1 年から英語を導入し、徐々に増やしていく。3 年以降はほとんどの授業を英語で行う。

5) 異なる文化や、多様な価値観を持つ人々と協働する力を身につける

文学と芸術に触れる機会や、世界の人々と協働する体験を通じ、創造性と、自身や社会並びに世界に対する深い理解を育む。

(3) 卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

本校は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた実践的・創造的技術者を養成しています。グローバルイノベーターとは、課題を発見する科学的思考力を持ち、最新の工学知識や洞察力を身につけ、創造的な解決策を用いて新しい価値を生み出す人材です。さらに、さまざまな分野の専門家たちと協働し、文化や価値観の多様性を受け入れ、グローバル社会で活躍する力を持ったプロフェッショナルでもあります。

新しい価値の発見者“イノベーター”は、工学原理、工学実践を幅広く理解していなければなりません。つまり、工学教育改革を目指す国際的組織「C D I O イニシアチブ」の「Conceive、Design、Implement、Operate」というそれぞれの段階を理解し実践する者です。具体的には、次の能力及び行動規範を身につけることを求めています。

I 社会に貢献するリーダーとしての人間力

① 革新への挑戦

信念(高い志・強靱な意志)を持って行動し、失敗に臆することなく粘り強く挑戦し続け、自身やチームを成功へと導くことができる。

② 社会的使命感

地域社会や自然環境に関心を持ち、社会的な課題の解決に使命感を持っている。

③ リーダーとしての高潔

グローバルな環境でリーダーシップを発揮する一方で、謙虚さや他者への尊敬、思いやりを持ち、信頼される人格を備えている。

II グローバルに活躍できるコミュニケーション能力

① コラボレーション

チームで目標を達成するために、自分の役割と提供できる価値を認識し、積極的に貢献する。

② 多様性とアイデンティティ

多様な文化や価値観を持つ人々と協働するための教養を備えつつ、自身の考えを持っている。

③ 心を動かす力

自身の考えを論理的にまとめたうえで、相手の立場や気持ちを考慮しながら効果的に伝えることができる。

III イノベーターに相応しい卓越した科学技術力

① 価値創出

幅広い学問領域の探求とデザイン思考の実践により、これまでにない価値を創出することができる。

② 自然・社会・産業と結びつけた科学的思考

科学技術を自然・社会・産業の面から理解・分析し、自分の考えを述べることができる。

③ 常に学び続ける姿勢

科学・工学の基礎を土台として、常に新しい知識・技術を獲得する姿勢を持っている。

これらの認識の下、本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得していることが卒業の要件です。獲得した知識を知恵（応用力）に転換できる、すなわち「自ら考え行動する技術者」として、学生自らが興味を持って計画的に学習し、考えて行動のできる学生を育成します。